

ふれあい

No.4

編集発行 上越市立春日小学校

「感動」や「驚き」の表現

1年生が中庭で育てているアサガオがグングン育っています。毎朝、水の入ったペットボトルを持って、自分の鉢に駆け寄って行く子どもたちの姿を、校長室の窓から眺めるのは楽しみの一つです。「大きなあれ!」という子どもたちの願いは、確実に届いているようです。子どもたちといっしょに、開花を心待ちにしています。



さて、月曜日の朝は、2日間観察していない分、その変化に驚く子どもたちの声が普段よりも響きます。一番多いのは「やばい」です。「芽が5つもでた」「葉っぱが大きくなった(数が増えた)」「つるが長くなった」など、生長を喜び、そのうれしさを表現しています。

この「やばい」という言葉は、学校に限らず、日常生活の中でよく使われます。様々なシチュエーションにおいてその時々のお気持ちを表す効果的な表現にも感じますが、「やばい」によって置き換えられた言葉たちの存在も無視できません。多様な感情を一言で括ってしまうことが語彙力の低下につながるのでは、という意見もあります。皆さんは、どのようにお考えでしょうか?

次によく耳にするのは、「でか(っ)」「すご(っ)」といった言葉です。これは「語幹用法(形容詞を活用語尾まで言わずに言い切る語法)」とあって、古くからあるもので、俗語でも誤用でもないそうです。西日本で使われることが多く、東日本ではあまり使われてなかったのが違和感を覚える人も多いと言われていました。私もその一人ですが、よく調べてみないといけないなと思いました。

○ 6月16日、地震を想定した**避難訓練**を行いました。保護者の皆様には、引き渡し訓練にご協力いただきありがとうございました。さて、子どもたちの避難については、私語が聞こえるなど、緊張感に欠ける部分が見られました。その後上越市では、19、20日と震度3の地震が発生しました。20日は登校日でしたが、緊急地震速報と実際の揺れで、身を守る行動が素早くできた子どもが多かったです。

○ 6月は、5年生の**自然教室**と6年生の**修学旅行**が行われました。大きな行事を経験して、学年のまとまりがより一層深まっていくことを期待しています。6年生の修学旅行では、今年も、お弁当の箸袋に「おいしかったです。ありがとうございました」のメッセージを書き記す子どもがいました。昨年、話題になったことを覚えていたそうです。伝統として引き継がれるのか・・・楽しみです。

○ 7月に**個別面談**があります。大切な情報交換の場になりたいと思います。ご協力をお願いいたします。

【校長 星野 浩一】



2年生あおぞら学年



みて、こんなに大きくなったよ！



「自分で育てた野菜を食べたい！」という思いをもち、お世話や観察をがんばっています。畑の先生として地域の方々に来ていただき、苗植えや支柱立て、脇芽つみなどのアドバイスをいただきながら奮闘中です。



5年生きずな学年



①もちを伝え合い

②っと高め合う仲間でいよう

③んどでもチャレンジ

高学年の仲間入りをしたきずな学年。かけはし班や委員会活動に張り切って取り組んでいます。



学校田での米作りの活動を通して食の大切さやこれからの農業について深く考えていきます。



自然教室では、自然の中で思い切り活動し、役割を果たすことや協力、助け合いの大切さを学びました。また、友達のよさを再確認し、一層、絆を深めることができました。

